

各組織におけるURAの業務範囲の類型(2013年当時)

	初級	中級	上級		初級	中級	上級		初級	中級	上級
研究戦略支援				研究戦略支援				研究戦略支援			
プレアワード				プレアワード				プレアワード			
ポストアワード				ポストアワード				ポストアワード			
関連専門業務				関連専門業務				関連専門業務			

☆事務機能との重複

☆オールラウンド型

☆研究戦略・プレアワード
特化型

	初級	中級	上級
研究戦略支援			
プレアワード			
ポストアワード			
関連専門業務			

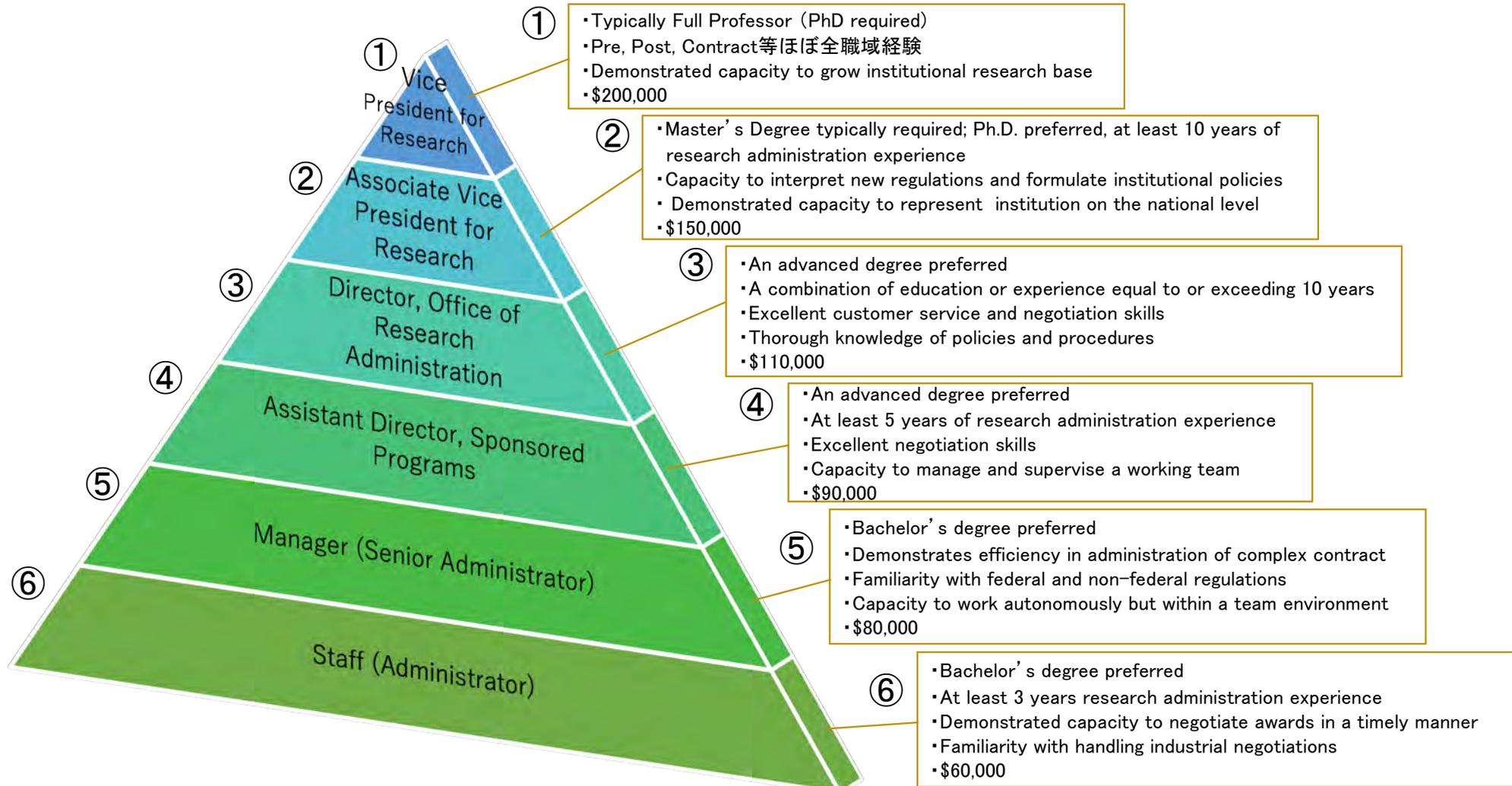
☆専門特化型

現在の組織構造のパターン

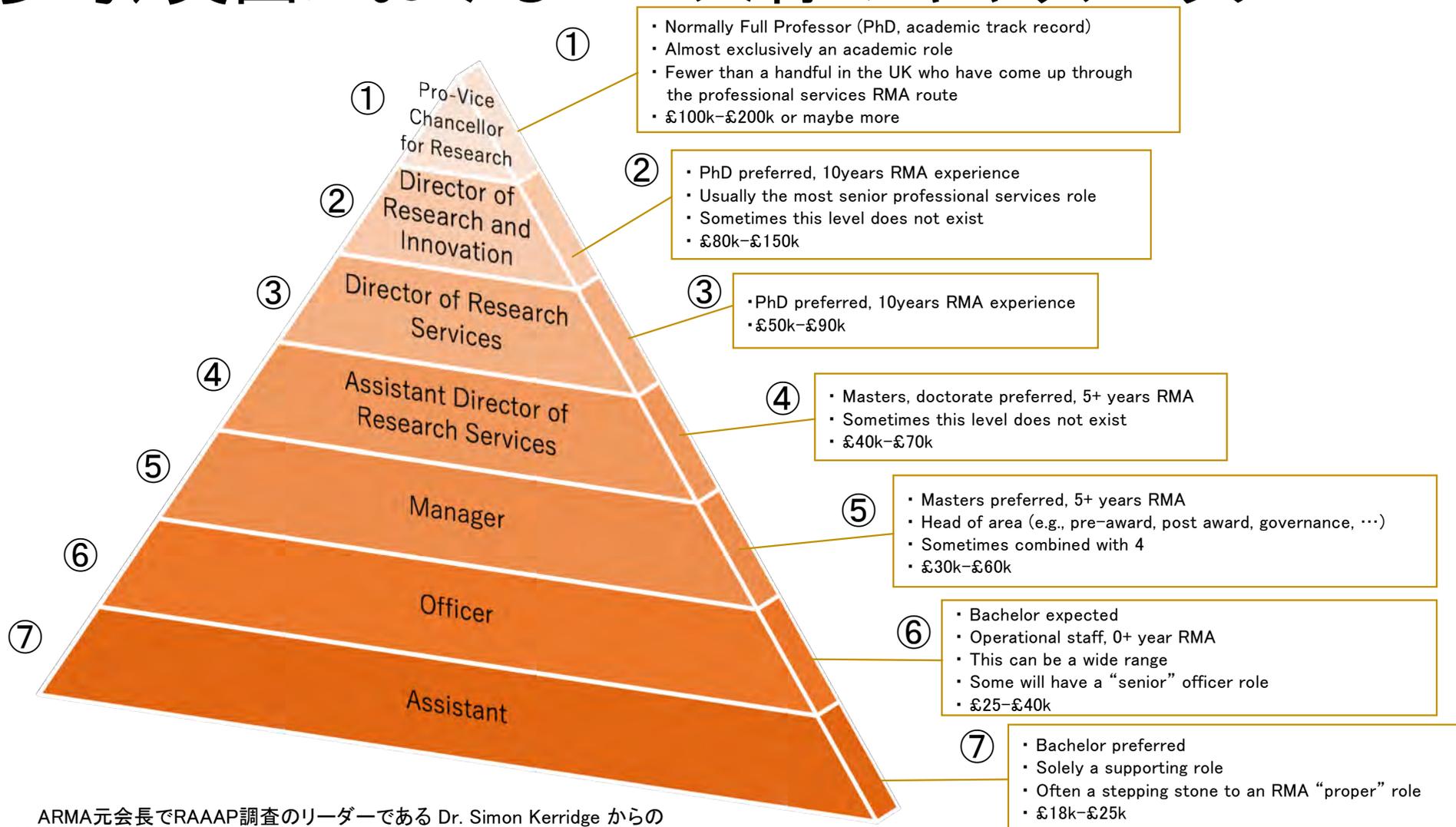
- ・大学本部型
- ・大学本部／部局兼務型
- ・部局所属(雇用型)

- ①大学の特性によってURAの業務特性のアロケーションは異なる
- ②初級URAのスキルカードの機能は事務機能と重複がある
- ③産学連携・知的財産管理業務等の機能は、URA機能の専門特化型に相当する
- ④スキル標準はいずれも包含した範囲で作成し、各大学の事情に応じた範囲で利用を行う

参考) 米国におけるURA人材のキャリア・ラダー



参考) 英国におけるURA人材のキャリア・ラダー



220519 ARMA元会長でRAAAP調査のリーダーである Dr. Simon Kerridge からの情報をもとに筆者の責任で作成。職名は統一されているわけではない。 M.Takahashi 2022

参考) オーストラリアにおけるURA人材のキャリア・ラダー

オーストラリアでは国全体で、Higher Education Worker (HEW) について、以下の7つの項目で10段階のレベル設定 (level 10が最上位) がなされている。

https://www.newcastle.edu.au/_data/assets/pdf_file/0011/89795/general-staff-secondary-descriptors.pdf

https://www.monash.edu/_data/assets/word_doc/0007/690442/descriptors.doc 等

- Training level
- Task level
- Organisational knowledge and impact
- Levels of supervision
- Judgement, independence and problem solving
- Occupational equivalent
- Typical activities

- スタッフ(URAを含む)の求人は職種とレベルを指定してなされる。各人は自身がその職種とレベルに合っていると判断して、応募する。(指定された学問分野と職階に合うと考えて教員が応募するのと同様)
- モナシュ大学の場合、URAは level 5 以上とされ、職階と要求されるレベルと給与の関係は右図のように表せる。

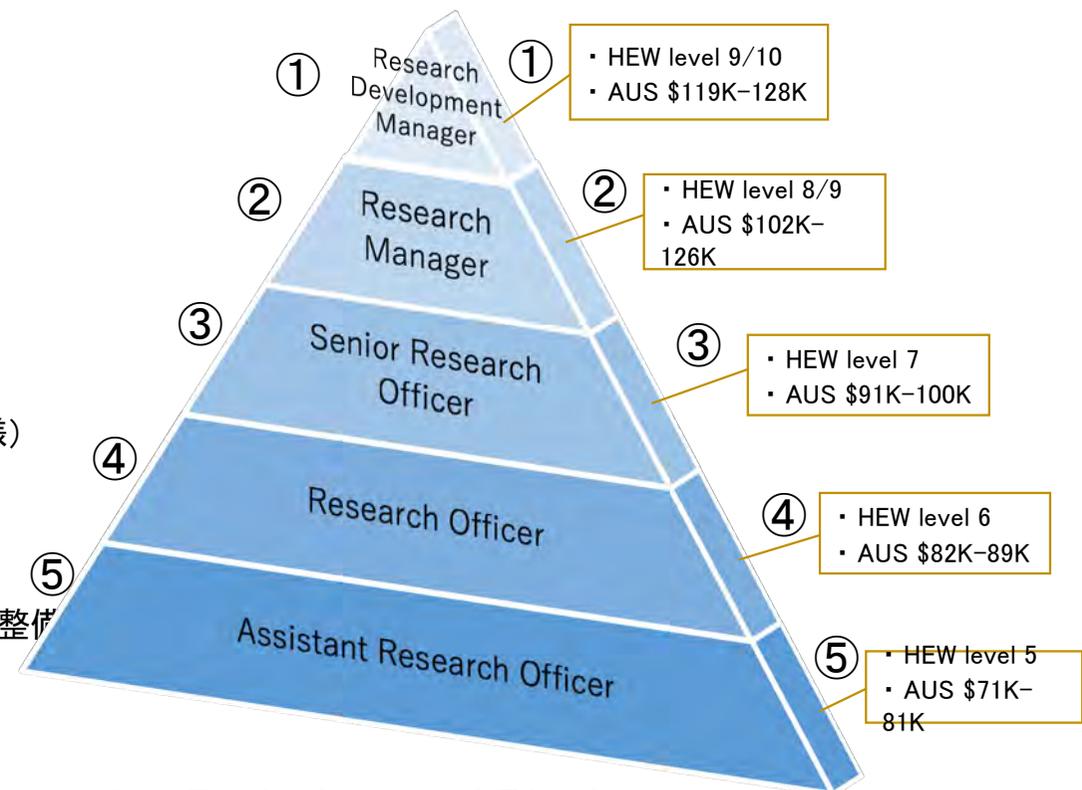
(情報源)

東京大学「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備(スキル標準の作成)」成果報告書, 平成26年5月

https://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/ura/detail/1349663.htm

モナシュ大学ホームページ

<https://www.monash.edu/enterprise-agreements/staff-salary-rates/professional>



(注)この図はスタッフとしてのURAの階層を表したものであり、この上に研究担当の理事や副学長等が位置することは米国や英国と同様である。

補足資料

- 大学等の組織あたりのURAの人数
- URA雇用財源比率の推移
- URA機能が欧米において発展してきた背景
- 米国大学のRA関連組織構造モデル
- RMA/URAのキャリアラダー(USA, US, 豪州)(職位、報酬、学位など)

参考資料

- RA協議会活動概要
- URAスキル認定制度について

<スキルプログラム専門委員会の活動>

新任研修

毎年度5月～6月に、その年に新しくURA・研究支援職に就いた人を対象に実施。

科目構成は、「URA概論」...URAの歴史、国内外の諸制度・動き、URAの役割・スキルなど講義形式

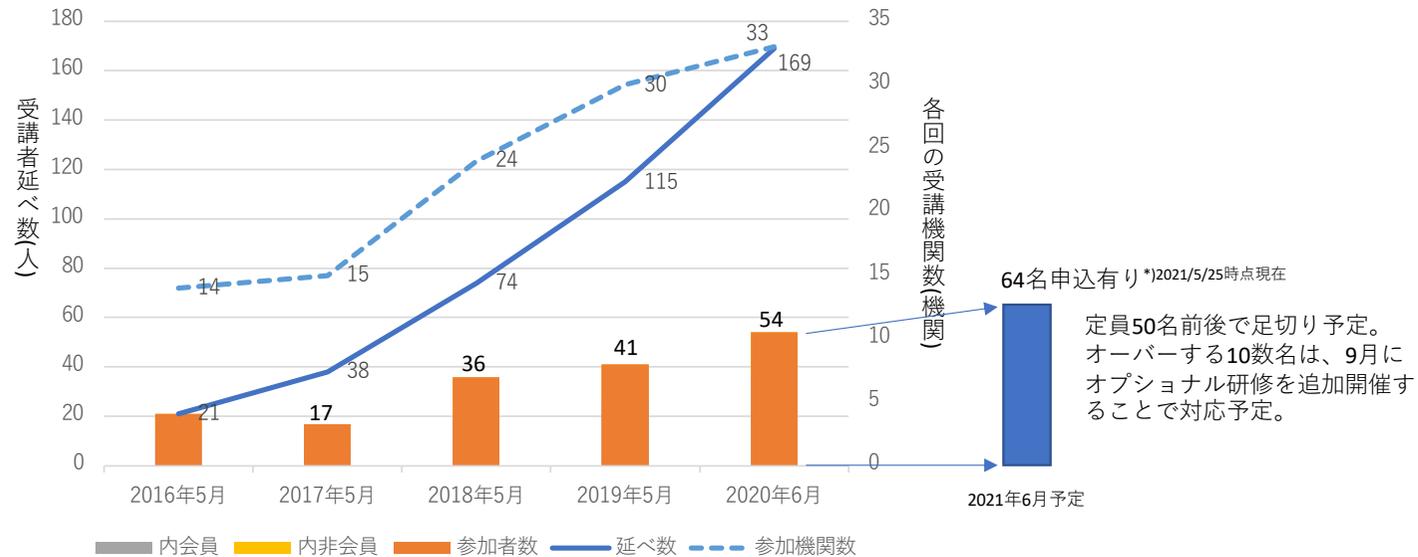
「先輩URA紹介」...3年前後の先輩URAの実態を紹介、意見交換、講義および意見交換形式

「グループワーク」...課題をグループ単位で検討し発表。グループワーク形式

「情報交換」...対面時は自己紹介および名刺交換。オンライン時はグループ単位の自己紹介。

受講者数推移

新任研修の受講者数推移



年次大会

毎年の年次大会で教育セッションとして2コマ分を確保。

定番セッションとして「プレアワード」分野...毎年実施、科研費等の競争的資金の支援方法を中心に講義。

企画セッションとして「研究IR」「産学連携」「ポストアワード」「情報収取と活用」などを実施。

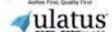
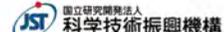
年次大会の活動例：RA協議会第6回年次大会のプログラム

大会テーマ 躍動するURAが組織を変革する～連携、協働、そして価値連鎖へ～

1日目 9月17日 (木)							
10:00-10:20	オープニング						
10:30-12:00	<table border="1"> <tr> <td>S-1 特別セッションI 日本の研究力強化のための政策と具体的な方策について 小林 源太 (京都大学) 中野 俊子 (東北大学)</td> <td>F-1★ 情報過多時代における市場と大学の関係を再考する 小林 源太 (京都大学)</td> <td>J-1★ 海外ファンドを活用した若手研究者の国際化支援を学ぶ 松岡 隆彦 (京大) 中野 俊子 (京大)</td> <td>Y-1 産学連携セッション 産学連携サービス提供と産学連携の推進 中野 俊子 (京大)</td> <td>Y-2 Link to European Funded Grants (EURAXESS Japan) 中野 俊子 (京大)</td> <td>E-1★ 認知基盤のデジタルトランスフォーメーション(DX) 松岡 隆彦 (京大)</td> </tr> </table>	S-1 特別セッションI 日本の研究力強化のための政策と具体的な方策について 小林 源太 (京都大学) 中野 俊子 (東北大学)	F-1★ 情報過多時代における市場と大学の関係を再考する 小林 源太 (京都大学)	J-1★ 海外ファンドを活用した若手研究者の国際化支援を学ぶ 松岡 隆彦 (京大) 中野 俊子 (京大)	Y-1 産学連携セッション 産学連携サービス提供と産学連携の推進 中野 俊子 (京大)	Y-2 Link to European Funded Grants (EURAXESS Japan) 中野 俊子 (京大)	E-1★ 認知基盤のデジタルトランスフォーメーション(DX) 松岡 隆彦 (京大)
S-1 特別セッションI 日本の研究力強化のための政策と具体的な方策について 小林 源太 (京都大学) 中野 俊子 (東北大学)	F-1★ 情報過多時代における市場と大学の関係を再考する 小林 源太 (京都大学)	J-1★ 海外ファンドを活用した若手研究者の国際化支援を学ぶ 松岡 隆彦 (京大) 中野 俊子 (京大)	Y-1 産学連携セッション 産学連携サービス提供と産学連携の推進 中野 俊子 (京大)	Y-2 Link to European Funded Grants (EURAXESS Japan) 中野 俊子 (京大)	E-1★ 認知基盤のデジタルトランスフォーメーション(DX) 松岡 隆彦 (京大)		
12:00-13:30	休憩						
13:30-15:00	<table border="1"> <tr> <td>S-2 特別セッションII 日本の研究力強化のための政策と具体的な方策について 中野 俊子 (京大)</td> <td>F-2★ 大学等におけるブランド価値とその向上策について 中野 俊子 (京大)</td> <td>J-2★ 若手外国人研究者に活躍してもらうには 中野 俊子 (京大)</td> <td>個人発表 コアタイム①</td> <td>E-2★ 研究力を見える化する 本多 啓介 (情報システム研究機構)</td> <td></td> </tr> </table>	S-2 特別セッションII 日本の研究力強化のための政策と具体的な方策について 中野 俊子 (京大)	F-2★ 大学等におけるブランド価値とその向上策について 中野 俊子 (京大)	J-2★ 若手外国人研究者に活躍してもらうには 中野 俊子 (京大)	個人発表 コアタイム①	E-2★ 研究力を見える化する 本多 啓介 (情報システム研究機構)	
S-2 特別セッションII 日本の研究力強化のための政策と具体的な方策について 中野 俊子 (京大)	F-2★ 大学等におけるブランド価値とその向上策について 中野 俊子 (京大)	J-2★ 若手外国人研究者に活躍してもらうには 中野 俊子 (京大)	個人発表 コアタイム①	E-2★ 研究力を見える化する 本多 啓介 (情報システム研究機構)			
15:00-15:15	休憩						
15:15-16:45	<table border="1"> <tr> <td>Z-1 賛助会員セッション エルゼビア・ジョンソン株式会社</td> <td>J-3★ 研究力強化に向けたURA活用による産学連携支援体制のあり方 Marc Hansen (東北大学)</td> <td>個人発表 コアタイム②</td> <td>I-1-3★ 社会との連携による新たな産学連携推進モデルの検討 森田 浩 (京大)</td> <td>N-1 参加者ネットワークワーキング：産学連携推進申請を通じたURAのネットワークの重要性について</td> <td></td> </tr> </table>	Z-1 賛助会員セッション エルゼビア・ジョンソン株式会社	J-3★ 研究力強化に向けたURA活用による産学連携支援体制のあり方 Marc Hansen (東北大学)	個人発表 コアタイム②	I-1-3★ 社会との連携による新たな産学連携推進モデルの検討 森田 浩 (京大)	N-1 参加者ネットワークワーキング：産学連携推進申請を通じたURAのネットワークの重要性について	
Z-1 賛助会員セッション エルゼビア・ジョンソン株式会社	J-3★ 研究力強化に向けたURA活用による産学連携支援体制のあり方 Marc Hansen (東北大学)	個人発表 コアタイム②	I-1-3★ 社会との連携による新たな産学連携推進モデルの検討 森田 浩 (京大)	N-1 参加者ネットワークワーキング：産学連携推進申請を通じたURAのネットワークの重要性について			
16:45-17:00	休憩						
17:00-17:30	総会						
18:00-19:30	情報交換会						

2日目 9月18日 (金)							
9:00-10:30	<table border="1"> <tr> <td>Z-2★ 賛助会員セッション カラリバイト</td> <td>C-1★ 自然科学分野での産学連携の推進 松岡 隆彦 (京大)</td> <td>H-1★ 組織的な産学連携を本格化させる方策とは？ 松岡 隆彦 (京大)</td> <td>S-1★ 国際専門家委員会セッション INORMS2024に向けての国際産学連携推進 三宅 啓介 (東北大学)</td> <td>D-1★ 研究者が夢をかなえるために～研究資金獲得+αのスキルアップ 松岡 隆彦 (京大)</td> <td>N-2 参加者ネットワークワーキング：産学連携推進申請を通じたURAのネットワークの重要性について</td> </tr> </table>	Z-2★ 賛助会員セッション カラリバイト	C-1★ 自然科学分野での産学連携の推進 松岡 隆彦 (京大)	H-1★ 組織的な産学連携を本格化させる方策とは？ 松岡 隆彦 (京大)	S-1★ 国際専門家委員会セッション INORMS2024に向けての国際産学連携推進 三宅 啓介 (東北大学)	D-1★ 研究者が夢をかなえるために～研究資金獲得+αのスキルアップ 松岡 隆彦 (京大)	N-2 参加者ネットワークワーキング：産学連携推進申請を通じたURAのネットワークの重要性について
Z-2★ 賛助会員セッション カラリバイト	C-1★ 自然科学分野での産学連携の推進 松岡 隆彦 (京大)	H-1★ 組織的な産学連携を本格化させる方策とは？ 松岡 隆彦 (京大)	S-1★ 国際専門家委員会セッション INORMS2024に向けての国際産学連携推進 三宅 啓介 (東北大学)	D-1★ 研究者が夢をかなえるために～研究資金獲得+αのスキルアップ 松岡 隆彦 (京大)	N-2 参加者ネットワークワーキング：産学連携推進申請を通じたURAのネットワークの重要性について		
10:30-10:45	休憩						
10:45-12:15	<table border="1"> <tr> <td>A-1★ 今、URAに求められる能力を考える 中野 俊子 (京大)</td> <td>F-1★ 産学連携推進プロジェクトにおけるURAの役割について考える 中野 俊子 (京大)</td> <td>H-2★ 産学連携を起点とする新たな研究力強化の方向とは？ 松岡 隆彦 (京大)</td> <td>S-2★ オープンサイエンス時代における産学連携のあり方 松岡 隆彦 (京大)</td> <td>D-2★ 国際産学連携の活性化 松岡 隆彦 (京大)</td> <td>N-3 参加者ネットワークワーキング：産学連携推進申請を通じたURAのネットワークの重要性について</td> </tr> </table>	A-1★ 今、URAに求められる能力を考える 中野 俊子 (京大)	F-1★ 産学連携推進プロジェクトにおけるURAの役割について考える 中野 俊子 (京大)	H-2★ 産学連携を起点とする新たな研究力強化の方向とは？ 松岡 隆彦 (京大)	S-2★ オープンサイエンス時代における産学連携のあり方 松岡 隆彦 (京大)	D-2★ 国際産学連携の活性化 松岡 隆彦 (京大)	N-3 参加者ネットワークワーキング：産学連携推進申請を通じたURAのネットワークの重要性について
A-1★ 今、URAに求められる能力を考える 中野 俊子 (京大)	F-1★ 産学連携推進プロジェクトにおけるURAの役割について考える 中野 俊子 (京大)	H-2★ 産学連携を起点とする新たな研究力強化の方向とは？ 松岡 隆彦 (京大)	S-2★ オープンサイエンス時代における産学連携のあり方 松岡 隆彦 (京大)	D-2★ 国際産学連携の活性化 松岡 隆彦 (京大)	N-3 参加者ネットワークワーキング：産学連携推進申請を通じたURAのネットワークの重要性について		
12:15-13:45	休憩						
13:45-15:15	<table border="1"> <tr> <td>A-2★ URA機能・産学連携推進のあり方と今後のあり方 中野 俊子 (京大)</td> <td>F-2★ "100人論文"を産学連携の推進に活用する 松岡 隆彦 (京大)</td> <td>G-1★ 産学連携の時代～ビッグデータ、オープンサイエンス等を活用した新しい研究の推進 松岡 隆彦 (京大)</td> <td>S-2★ 契約の管理手法 大野 真紀 (東北大学)</td> <td>K-1★ スキルプログラム専門委員会セッション ポストアワード (研究プロジェクト運営管理) 松岡 隆彦 (京大)</td> <td>N-4 参加者ネットワークワーキング：産学連携推進申請を通じたURAのネットワークの重要性について</td> </tr> </table>	A-2★ URA機能・産学連携推進のあり方と今後のあり方 中野 俊子 (京大)	F-2★ "100人論文"を産学連携の推進に活用する 松岡 隆彦 (京大)	G-1★ 産学連携の時代～ビッグデータ、オープンサイエンス等を活用した新しい研究の推進 松岡 隆彦 (京大)	S-2★ 契約の管理手法 大野 真紀 (東北大学)	K-1★ スキルプログラム専門委員会セッション ポストアワード (研究プロジェクト運営管理) 松岡 隆彦 (京大)	N-4 参加者ネットワークワーキング：産学連携推進申請を通じたURAのネットワークの重要性について
A-2★ URA機能・産学連携推進のあり方と今後のあり方 中野 俊子 (京大)	F-2★ "100人論文"を産学連携の推進に活用する 松岡 隆彦 (京大)	G-1★ 産学連携の時代～ビッグデータ、オープンサイエンス等を活用した新しい研究の推進 松岡 隆彦 (京大)	S-2★ 契約の管理手法 大野 真紀 (東北大学)	K-1★ スキルプログラム専門委員会セッション ポストアワード (研究プロジェクト運営管理) 松岡 隆彦 (京大)	N-4 参加者ネットワークワーキング：産学連携推進申請を通じたURAのネットワークの重要性について		
15:15-15:30	休憩						
15:30-17:00	<table border="1"> <tr> <td>A-3★ DLIY 未来の研究環境を自ら設計する研究者たち 松岡 隆彦 (京大)</td> <td>F-3★ 大学の強みとなるブランド研究をのびせすには？ 松岡 隆彦 (京大)</td> <td>G-2★ 産学連携の時代～ビッグデータ、オープンサイエンス等を活用した新しい研究の推進 松岡 隆彦 (京大)</td> <td>S-3★ 産学連携の時代～ビッグデータ、オープンサイエンス等を活用した新しい研究の推進 松岡 隆彦 (京大)</td> <td>K-2★ スキルプログラム専門委員会セッション ポストアワード (研究プロジェクト運営管理) 松岡 隆彦 (京大)</td> <td></td> </tr> </table>	A-3★ DLIY 未来の研究環境を自ら設計する研究者たち 松岡 隆彦 (京大)	F-3★ 大学の強みとなるブランド研究をのびせすには？ 松岡 隆彦 (京大)	G-2★ 産学連携の時代～ビッグデータ、オープンサイエンス等を活用した新しい研究の推進 松岡 隆彦 (京大)	S-3★ 産学連携の時代～ビッグデータ、オープンサイエンス等を活用した新しい研究の推進 松岡 隆彦 (京大)	K-2★ スキルプログラム専門委員会セッション ポストアワード (研究プロジェクト運営管理) 松岡 隆彦 (京大)	
A-3★ DLIY 未来の研究環境を自ら設計する研究者たち 松岡 隆彦 (京大)	F-3★ 大学の強みとなるブランド研究をのびせすには？ 松岡 隆彦 (京大)	G-2★ 産学連携の時代～ビッグデータ、オープンサイエンス等を活用した新しい研究の推進 松岡 隆彦 (京大)	S-3★ 産学連携の時代～ビッグデータ、オープンサイエンス等を活用した新しい研究の推進 松岡 隆彦 (京大)	K-2★ スキルプログラム専門委員会セッション ポストアワード (研究プロジェクト運営管理) 松岡 隆彦 (京大)			
18:00-19:00	情報交換会						

★：大会終了後に、特別設けられた講演部分の一言動画を公開する予定です。



色	タイプ	全体概要をカバーするセッション	タイプII (シンポジウムの詳細を本セミナーが提供するセッション)
A	産学連携セッション	産学連携セッション	産学連携セッション
B	産学連携セッション	産学連携セッション	産学連携セッション
C	産学連携セッション	産学連携セッション	産学連携セッション
D	産学連携セッション	産学連携セッション	産学連携セッション
E	産学連携セッション	産学連携セッション	産学連携セッション
F	産学連携セッション	産学連携セッション	産学連携セッション
G	産学連携セッション	産学連携セッション	産学連携セッション
H	産学連携セッション	産学連携セッション	産学連携セッション
I	産学連携セッション	産学連携セッション	産学連携セッション
J	産学連携セッション	産学連携セッション	産学連携セッション
K	産学連携セッション	産学連携セッション	産学連携セッション
L	産学連携セッション	産学連携セッション	産学連携セッション
M	産学連携セッション	産学連携セッション	産学連携セッション
N	産学連携セッション	産学連携セッション	産学連携セッション
O	産学連携セッション	産学連携セッション	産学連携セッション
P	産学連携セッション	産学連携セッション	産学連携セッション
Q	産学連携セッション	産学連携セッション	産学連携セッション
R	産学連携セッション	産学連携セッション	産学連携セッション
S	特別セッション	特別セッション	特別セッション
T	特別セッション	特別セッション	特別セッション
U	特別セッション	特別セッション	特別セッション
V	特別セッション	特別セッション	特別セッション
W	特別セッション	特別セッション	特別セッション
X	特別セッション	特別セッション	特別セッション
Y	特別セッション	特別セッション	特別セッション
Z	特別セッション	特別セッション	特別セッション

6th RMAN J Annual Conference 2020

時間	セッション	発表者	内容
10:30-12:00	S-1	特別セッションI	日本の研究力強化のための政策と具体的な方策について
13:30-15:00	S-2	特別セッションII	日本の研究力強化のための政策と具体的な方策について
10:30-12:00	Y-1	非営利団体セッション	産学連携推進サービスを活用した研究力強化支援 (国立研究開発法人科学技術振興機構)
13:30-15:00	Y-2	非営利団体セッション	Link to European Funded Grants (EURAXESS Japan)
15:15-16:45	Z-1	賛助会員セッション	エルゼビア・ジョンソン株式会社
9:00-10:30	Z-2	賛助会員セッション	カラリバイト
10:30-12:00	F-1	小林 源太 (京都大学)	情報過多時代における市場と大学の関係を再考する
10:30-12:00	F-2	松岡 隆彦 (京大)	海外ファンドを活用した若手研究者の国際化支援を学ぶ
10:30-12:00	F-3	佐々木 隆太 (北海道大学)	研究基盤のデジタルトランスフォーメーション(DX)
13:30-15:00	F-4	中野 俊子 (東北大学)	大学等におけるブランド価値とその向上策について
13:30-15:00	F-5	若手外国人研究者に活躍してもらうには	
13:30-15:00	F-6	本多 啓介 (情報システム研究機構)	研究力を見える化するシステム
13:30-15:00	F-7	Marc Hansen (東北大学)	研究力強化に向けたURA活用による産学連携支援体制のあり方
15:15-16:45	F-8	森田 浩 (京大)	社会との連携による新たな産学連携推進モデルの検討
15:15-16:45	N-1	参加者ネットワークワーキング	産学連携推進申請を通じたURAのネットワークの重要性について
15:15-16:45	N-2	加藤 英 (筑波大学)	自然科学分野での効率性の高い研究力評価法
15:15-16:45	N-3	樋口 隆信 (電気通信大学)	組織的な産学連携を本格化させる方策とは？
9:00-10:30	R-1	国際専門家委員会セッション	INORMS2024 に向けての国際産学連携推進
10:30-12:00	D-1	松岡 隆彦 (京大)	研究者が夢をかなえるために～研究資金獲得+αのスキルアップ
10:30-12:00	N-2	参加者ネットワークワーキング	産学連携推進申請を通じたURAのネットワークの重要性について
10:30-12:00	A-1	中野 俊子 (京大)	今、URAに求められる能力を考える
10:30-12:00	F-1	中野 俊子 (京大)	産学連携推進プロジェクトにおけるURAの役割について考える
10:30-12:00	H-2	松岡 隆彦 (京大)	産学連携を起点とする新たな研究力強化の方向とは？
10:30-12:00	S-2	オープンサイエンス時代における産学連携のあり方	
10:30-12:00	D-2	松岡 隆彦 (京大)	国際産学連携の活性化
10:30-12:00	N-3	参加者ネットワークワーキング	産学連携推進申請を通じたURAのネットワークの重要性について
10:30-12:00	A-2	大野 真紀 (東北大学)	URA機能・産学連携推進のあり方と今後のあり方
10:30-12:00	F-2	松岡 隆彦 (京大)	"100人論文"を産学連携の推進に活用する
10:30-12:00	G-1	松岡 隆彦 (京大)	産学連携の時代～ビッグデータ、オープンサイエンス等を活用した新しい研究の推進
10:30-12:00	S-2	契約の管理手法	
10:30-12:00	K-1	松岡 隆彦 (京大)	スキルプログラム専門委員会セッション ポストアワード (研究プロジェクト運営管理)
10:30-12:00	N-4	参加者ネットワークワーキング	産学連携推進申請を通じたURAのネットワークの重要性について
13:45-15:15	G-2	松岡 隆彦 (京大)	産学連携の時代～ビッグデータ、オープンサイエンス等を活用した新しい研究の推進
13:45-15:15	B-2	大野 真紀 (東北大学)	契約の管理手法
13:45-15:15	K-1	松岡 隆彦 (京大)	スキルプログラム専門委員会セッション ポストアワード (研究プロジェクト運営管理)
13:45-15:15	N-4	参加者ネットワークワーキング	産学連携推進申請を通じたURAのネットワークの重要性について
13:45-15:15	A-3	松岡 隆彦 (京大)	DLIY 未来の研究環境を自ら設計する研究者たち
13:45-15:15	F-3	松岡 隆彦 (京大)	大学の強みとなるブランド研究をのびせすには？ (仮)
13:45-15:15	G-2	松岡 隆彦 (京大)	産学連携の時代～ビッグデータ、オープンサイエンス等を活用した新しい研究の推進
13:45-15:15	B-3	松岡 隆彦 (京大)	産学連携の時代～ビッグデータ、オープンサイエンス等を活用した新しい研究の推進
13:45-15:15	K-2	松岡 隆彦 (京大)	スキルプログラム専門委員会セッション ポストアワード (研究プロジェクト運営管理)

INORMS Congresses (2006年より隔年で開催)

(2020年大会は、新型コロナウイルス蔓延のため、2021年に延期してリモートで開催)

年.月	開催都市 (国)	主催団体	参加者	参加国
2006.8	Brisbane (豪)	ARMS	約450名	23
2008.6	Liverpool (英)	ARMA	約500名	30
2010.4	Cape Town (南アフリカ)	SARUMA + ACU	約410名	40
2012.5	Copenhagen (デンマーク)	DARMA	約450名	39
2014.4	Washington DC (米)	CAURA + NCURA + SRAI	約440名	38
2016.9	Melbourne (豪)	ARMS	約850名 *	39
2018.6	Edinburgh (英)	ARMA	約1,100名 *	55
2021.5	広島 (日本)	RA協議会	約500名	49

2021年大会のテーマ

“Promoting Diversity in Research and Research Management Collaborations: More Trans-National、More Trans-Disciplinary、More Trans-Sectoral”





INORMS 2020 Hiroshima

Partnered with



Under the auspices of



<INORMS2020 開催概要>

2021年:5月24日～27日 当初予定を1年延期してフルオンライン開催

INORMS第7回大会にあたる今回、アジアで初めて開催、世界30カ国超より、500人超参加(アジア3割)

基調講演2、通常セッション26、ポスター発表数61、

大会組織委員会 委員長)広島大学学長

INORMS : International Network of Research Management Societies

2001年設立。

世界各地の研究支援や運営・管理に携わる専門職団体の国際コンソーシアム。

加盟単位は団体(2021年9月現在、ARMA, ARMS, EARMA, NCURA, SRA Internationalなど21団体。

日本からはRA協議会が2016年に参加。

諸外国のURA団体と比較した日本のURA団体の特徴

- National Council of University Research Administrators (NCURA)(米国)
Individuals with professional interests in the administration of sponsored programs (research, education and training) primarily at colleges and universities の団体
- Society of Research Administrators International (SRA International)(米国)
Premier global research management society providing ... to professionals ...
- Association of Research Managers and Administrators (ARMA)(英国)
Professional association for research management
Represents research leaders, managers and administrators
- European Association of Research Managers and Administrators (EARMA)(欧州)
Community of research managers and administrators
- Australasian Research Management Society (ARMS)(豪州等)
Research management professionals の団体
- リサーチ・アドミニストレーション協議会(日本)(Fundamental の教材参照)
大学を含む研究機関において研究力強化に貢献し、学術及び科学技術の振興並びにイノベーションに寄与する団体(組織会員と個人会員から構成されている)

主に
ポストアワード



URA機能の評価（ポイント）

- URAに限らずマネジメント業務の評価、特に定量的指標の設定は難しい。
 - ・ URA関連人材の活動効果を、執行部、研究者などのステークホルダーに説明したいというニーズは、INORMS Executive Meetingでも各国団体トップの共通の話題
- 論文生産性のような明確な定量的指標は未だないものの、欧米の歴史ある団体組織の各種の試行は参考になる（p.30参照）
- アカデミアにおける研究活動のダイナミクスにおいて、URA機能の位置づけを明確化した結果、研究力向上にどう貢献できるか、自組織の課題と照らしどこに注力すべきか、連携すべき学内組織はどこか、という理解が深まる。
- 組織レベルの数年間の各種データ、URAや産学官連携コーディネータの存在により、外部資金獲得額・件数が優位に増加しているという分析結果もある